



札幌クラブ

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(YMCA561)5217

The Service Club of YMCA
The International Association of Y's Men's Clubs

EMC/MC (Membership Conservation)

— 主 題 —

国際会長	「Values, Extension and Leadership」	Jacob Kristensen (デンマーク)
アジア会長	「変化をもたらそう」	David Lua (シンガポール)
東日本区理事	「変化を楽しもう」	板村 哲也 (武蔵野多摩)
北海道部部长	「心を高めよう！	中村 義春 (北見)
ワイズダムの繋がりを友情の輪に～		
札幌クラブ会長	「楽しみを持って、喜びを持って」	宮崎 善昭 (札幌)

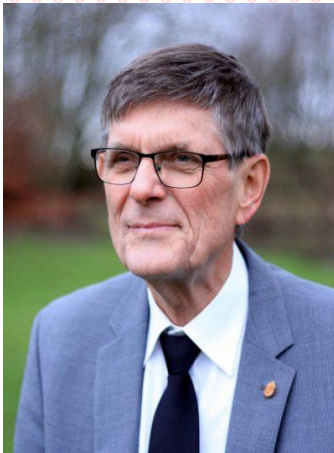
札幌クラブ役員

会長	宮崎 善昭
書記	柴田 伸俊
会計	秋葉 聡志
直前会長	伏木 康

今月の聖句

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」
ヨハネによる福音書7章12節 秋葉 聡志選

2020~2021年国際会長 ジェイコブ・クリステンセン (デンマーク)



会員の皆さまへ

自己紹介をさせていただきます。私はデンマークのリンケピング出身のジェイコブ・クリステンセンと申します。ランディと結婚しています、私たちは、ふたりとも引退しています。私たちの間には5人の子供と1人の孫がいます。私は、1981年にYMIに入会しました。私は、これまでにワイズダムにおいて、組織の様々なレベルでいくつかの役職に就いていましたが、今は、国際会長の職に専心いたします。

今期の私のスローガンは「命の川を信じよう」です。これは、新約聖書のヨハネの黙示録22章1-5節からの言葉です。聖霊は、「命の川」です。私たちは皆、命の川を土台にして、人生を築き上げていく機会を持っています。「命の川を信じよう」、これが私の希望です。私たちは、皆で全人類のためにより良い世界を築くのです。

私の任期中の主題として選んだのは「価値観、エクステンション、リーダーシップ」です。私たちの運動における3つの礎石です。私たちは、人生の中で、私たちの運動の中で、どのような価値観を持っているのでしょうか？それは、非常に大切な問題です。自分自身と自分の価値観を知ってください。どうぞそのことについて考えてください。

エクステンションは、成長のための基本的なプラットフォームです。エクステンションは、収支のバランスや、活動の条件を改善してくれます。しかし、会員増強・維持啓発も非常に重要なことです。私たちは、入会してくれた人々を大切にしなければなりません。私たちは、新入会員がワイズメンの仲間になっていると感じられるように、新入会員全員をクラブに迎え入れる義務があります。リーダーシップについては、私たちは、YMIが将来も成長できるように、常に組織の中でリーダーや才能のある人を探していることが重要です。また、私たちは、誰もがこのリーダーの仕事を手をひとりでできるわけではないことを忘れてはいけません。したがって、そのために私たちは、様々な委員会とトロイカの仕組みを持っています。チームによって、私たちは、違いを生み出すことができます。皆さまが私と一緒にYMIのより良い状況を目指して旅をしていただくことを期待し、信じています。

2020年11月例会
出席報告

在籍会員	8名	例会出席	7名	メネット	1名	コメット	0名	メーキアアップ	0名
ゲスト	1名	ビジター	1名	計	10名	出席率	88%		

札幌ワイズメンズクラブ 2020年12月例会

日時： 2020年12月16日(水) 18:30~20:30

場所： 北海道YMCA 101教室
札幌市中央区南11条西11丁目
電話 011-561-5217

会費： 1,000円

プログラム：

- 司会 柴田 伸俊
会長 宮崎 善昭
- ① 開会点鐘
 - ② ワイズソング・ワイズの信条
 - ③ 今月のことば
 - ④ 誕生日 12月21日 小野 健
 - ⑤ 結婚記念日 なし

⑥ 「家庭医療とは」(仮題) 松田 諭 医師

ファミリークリニックさっぽろ山鼻

- ⑦ 諸報告 各担当者
- ⑧ YMCA報告 担当主事 北川佳治
- ⑨ 今月の歌 「北風寒太郎」



(北川佳治選)

- ⑩ 閉会点鐘 会長 宮崎 善昭

札幌ワイズメンズクラブ11月例会

日時：2020年11月17日(火) 18:30~20:00

出席者：秋葉、北川、小野、伏木、中田、柴田、
ビジター：義村(札幌北)、メネット：宮崎
ゲスト：押谷(卓話者) 出席者計：9名
新コロナウイルス感染防止のため、食事はせず、各自持ち帰ることになった。卓話は酪農学園大学押谷一教授の「キリスト教と環境と経済」。

人間は欲望を満たすため地球上の資源を無限であると考えて浪費してきたが今日消費過剰になり、資源、環境が悪化してきている。単純再産的な考えに基づく経済を考え、実施していく時が来ている、と結論。私たち一人一人が行動していく自覚が必要であると感じた。質疑応答の後 YMCA 報告。(卓話要旨は p.3 に記載)



前列左から：柴田、押谷、宮崎、中田、義村
後列左から：宮崎メ、伏木、秋葉、小野、北川

札幌ワイズメンズクラブ 7月事務会

1. 12月例会・事務会

日程：12月16日(水) 18:30~19:30

会場：札幌 YMCA

※会食なし、持ち帰り弁当用意、例会のみ実施。
参加費 1,000円

卓話：ファミリークリニックさっぽろ山鼻 松田諭医師
テーマ「家庭医療とは」

事務会：12月22日(火) 19:00より

3. 1月合同例会

- ・中止の意向で北クラブに連絡
- ・今週中にホテルにキャンセル連絡(柴田)
- ・部としては(北見、十勝)呼びかけず
- ・1月例会は各クラブ単位で実施検討

4. その他

- ① 京都パレス50周年記念例会予定 3月27日(土) 宮崎会長出席予定
- ② ユース関連行事支援 全道ユースリーダー研修支援検討 担当:柴田メン部と連携して
- ③ 札幌クラブ1月例会 1月14日(木) 18:30~ YMCAにて予定
卓話：桂川良伸氏(中田メン紹介)

何故この聖句を 秋葉 聡志

「初めに言があった。」で始まるヨハネによる福音書の冒頭には、ヨハネの究極的なキリスト論的信仰告白が示されています。イエス・キリストは世の光として私たちのもとに来られました。イエスに従って歩むとき、私たちもまたイエスから「あなたがたは世の光である」と呼ばれるのです。

クリスマスの時、この恵みを感謝したいと思います。

キリスト教と環境、経済 押谷 一 (酪農学園大学教授、札幌北一条教会)

宇宙空間に浮かんでいる地球は、46億年前に形成された。地球上の生命は、幾多の淘汰や進化を経て人類の祖先がおよ



そ数十万年前に登場した。人類は二本足歩行によって、手で道具を使用することが可能になり、数千年前にはエジプト文明などの古代文明が生まれた。170年から20万年前の人類の祖先も単発的に火を使っていたようだが、石炭を使って機械化が進んだのは、わずか2、300年前に過ぎない。自動車の普及、飛行機の発明もわずか100年余り前のことである。

人類は限りない欲望を満たすために、地球上の資源を無限であると考えて、地球上の有限な資源（鉱物資源、化石燃料、生物資源）採取し、消費してきた。アメリカの経済学者、K.E.ポールディングは「地球は無限の倉庫や、無限のごみ箱を持っているわけではない」と過剰な資源消費に警鐘を鳴らしたが、人類は経済成長を止めることができず、深刻な環境問題が発生している。

人間は、豊かさの追求や資源の消費をどのように捉えてきたのか、キリスト教の視点から考えてみると、中世ヨーロッパでは、人びとの生活は様に貧しくカトリックの教えが支配的で、金儲けを諫め、禁欲的な生活を続けていた。一方、宗教改革によって登場したプロテスタントでは、富の蓄積は勤勉さによるものであると必ずしも否定していない。そして、それぞれの個人は節度があり、利己的な豊かさの追求は自ずと制限されるとしてきた。

しかし、現代社会では地球1.7個分のエネルギーや資源を消費していると言われている。そのため、このままの消費を続けると地球の資源は枯渇し、資源を消費した後に排出されるいわゆる廃棄物によって深刻な環境への影響が発生する。また、資源やエネルギーの消費の格差によって深刻な貧困が途上国を中心に課題となっている。

国連は、資源の過剰な消費、環境問題、貧困問題など人類の共通課題を2030年までに解決するためのSDGs（持続可能な開発のための目標）を示している。

しかし、以前と同じような資源消費を続ければ、環

境悪化、貧困・難民の発生、地域紛争の発生など深刻な状況が顕在化することが懸念される。

アメリカの経済学者 H.デリーは経済活動（さまざまな人間の活動）が持続するためには次の三つの原則を守られなければならないと示している。

1) 「再生可能な資源」の持続可能な利用速度は、その資源の再生速度を超えてはならない。

2) 「再生不可能な資源」の持続可能な利用速度は、再生可能な資源を持続可能なペースで利用することで代用できる速度を超えてはならない。

3) 「汚染物質」の持続可能な排出速度は、環境がそうした汚染物質を循環し、吸収し、無害化できる速度を上回ってはならない。

資源問題と環境問題の視点からは「大量生産、大量消費、大量廃棄」型の社会システムを「循環型」社会へと転換することが求められる。そのためのキーワードは「もったいない」である。無駄や過剰な消費を無くし、廃棄物を大量に排出するのではなく、Reduce（無駄を省き）、Reuse(再使用)、さらに Recycle（再資源化）を進めることを日常生活、産業活動すべてで取り組んでいかねばならない。

さらに、キリスト教では現代の飽食に対する警鐘のように次のような思想を示している。

「畑から穀物を刈り取るときは、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。貧しい者や寄留者のために残しておきなさい。」

旧約聖書 レビ記 23章22節

「貧しくもせず、金持ちにもせず、わたしのために定められたパンで私を養ってください。飽き足りれば、裏切り、主など何ものかと言うおそれがあります。貧しければ、盗みを働き、私の神の御名を汚しかねません。」

旧約聖書 箴言30章8-9節



札幌クラブ11月対面例会： 全員マスク着用、ソーシャル・ディスタンスを保って万全の体制です。

YMCA ニュース

担当主事 北川 佳治

① Amazon Future Engineer プログラム

Amazon Future Engineer は、Amazon と YMCA、そして Life is Tech! の協力による小学校 5 年生から中高生を対象としたプログラミング体験教室です。2020 年度は、「誰もがテクノロジーで世界を変えられる」体験を、全国各地の YMCA で提供します。

北海道 YMCA では、11 月 21 日～23 日(3 日間)に、札幌ランチでプログラミング DAYCAMP としてプログラミング体験教室を企画し、7 名の参加者が集いました。

今回のプログラミング DAYCAMP では、前半をオリジナルプログラミング教材で HTML/CSS など世界中の Web サイトで使われている言語を学び、後半に自分のオリジナル Web サイト作成にチャレンジしました。Web デザイン(テキストコーディング)の基礎を学び、自分の力で形にしていきました。最終日には、保護者の方の前で発表を行い、皆さんに高評価をいただきました。

次回は、12 月 26 日～30 日(5 日間)で開催致します。関心のある方は、是非札幌ランチ(011-561-5217)までお問合せください。



③ 札幌 YMCA 幼稚舎クリスマス礼拝

12 月 4 日(金)に札幌 YMCA 幼稚舎のクリスマス礼拝が行われました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外部施設ではなく、札幌ランチ会館(体育館)での開催となりました。また、館内での観覧人数に制限を設け、動画のライブ配信を行いました。不慣れな部分がありご利用の皆様にはご不便をお掛けしましたが、オンラインによる新たな形式が可能となりましたので、今後の良き材料にすることができました。



園児たちは、年長さんを中心に、日頃の練習の成果を一生懸命に出してくれました。換気のために、涼しい体育館でしたが、見守る保護者、先生の心が温まるとも素晴らしい演劇となりました。



ワイズの信条

- 1 自分を愛するように、隣人を愛そう。
- 2 青少年のために YMCA に尽くそう。
- 3 世界的視野を持って、
国際親善をはかろう。
- 4 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
- 5 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。

